

市の考えを問う 一般質問

9月11日・13日・14日の3日間行われた一般質問の主な質問（Q）と答弁（A）の概要を掲載します。



将来の公共施設を考えた模型展

Q 公共施設の将来像について

A 市民ニーズの変化を捉える

金泉婦貴子 議員

質問一 公共施設の現状について。
二 少子高齢化、人口減少など社会情勢から見た施設の在り方は。
三 コミュニティ、まちづくりと公共施設の在り方は。
四 公共施設の将来像について。
答弁一（市長） これまで人口急増に伴う行政需要に対応するため、公共施設の整備を優先的に進めてきた。現在、施設の維持管理は、財政上の制約があるため、計画的な大規模修繕や改修を行えず、必要な修繕等が生じた時点の対応となっている。
二 社会情勢や市民ニーズを捉え、高齢者が住みやすく、子どもを育てやすい、地域の実情に沿った公共施設の在り方を考える。
三 地域の交流や活動の拠点となり、共助を生かせるまちづくりを推進するため、公共施設の機能や配置を見直す。



四 少子化や高齢化、震災への備えといった現実の市民ニーズの変化を的確に捉えながら、コミュニティの活性化と新たな行政サービスの展開に資する豊かな公共施設を展望していく。
◎その他の質問
一 生活保護の動向について
二 つるがしま男女共同参画推進プラン（第4次）について

質問一 総合計画における将来人口の推計根拠について。
二 少子高齢化による人口の自然減の中での取り組みについて。
三 多世代が地域として同居できる循環型まちづくりについて。
答弁一（市長） 全国の他の市町村との比較が行いやすく、都道府県レベルの比較が可能な国立社会保障・人口問題研究所の将来推計

人口を根拠にしている。
二 地域支え合いの取り組みや子ども医療費助成制度の支援対象の年齢拡大、小中学校の耐震化と空調設備の設置、学校給食センターの更新など、子育て支援と教育環境の充実に向けた事業に力を入れて市の魅力を高め、出生率の向上や若い人たちの定住を促進する。
三 若い世代にとって魅力ある雇用創出や子育て支援など、将来を見据えた施策展開が必要であり、農業大学校移転後の跡地を活用した企業誘致や若葉駅西口土地区画整理事業の進展や一本松地区の整備、暫定逆線引き地区の市街化区域編入などにより、雇用創出と計画的な住環境の向上に努める。
◎その他の質問
一 平成24年度市民体育祭について
二 防犯対策について

内野 嘉広 議員

Q 多世代循環型のまちづくり A 将来を見据えた施策を展開する